

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	武雄市立山内西小学校
-----	------------

<b>達成度（評価）</b>	
A	：十分達成できている
B	：おおむね達成できている
C	：やや不十分である
D	：不十分である

1 前年度 評価結果の概要	<p>①「主体的に学び続ける教師・児童の育成」について 教師間では個別最適な学び・協働的な学びの推進に向けて取り組み、ICT機器を積極的に活用しわかりやすい授業を行ったことで、学習内容がよりわかると答えた児童が96%であった。また、「授業づくりのステップ1.2.3」を意識してステップ3を目指した授業づくりを行い、「話し合い活動」や「振り返り」はステップ3を達成した教員は73%で目標に達せなかった。次年度は、引き続き基礎基本の学習内容の定着と思考力・判断力・表現力がさらに向上するように自己調整する力や粘り強く学ぶ態度を育んでいきたい。</p> <p>②「心の教育」について 挨拶、返事、言葉遣いに関して、87%の児童が肯定的に取り組むことができていた。人権集会や異学年交流、道徳の時間を通して、自分も相手も大切にする心を育む教育活動を行ってきた結果、98%の児童が肯定的に捉えることができていた。今後も、困っていることや辛い思いなど自分の気持ちが伝えられるように教育相談体制を整え、支援体制を構築させていき、児童の良さを伸ばし、一人一人を認め、励ましながら、自己肯定感を高める教育活動の推進を行っていく。</p> <p>③「健康・体づくり」について 「健康に食事は大切である」と回答する児童は、98%、「朝食をとって登校する」児童は、96%であり、望ましい食生活は向上した。家庭での基本的な生活習慣の定着に向けた取組についても、保護者アンケートでは94%の保護者が肯定的な回答をしている。食習慣の意識は高く、食事の大切さは認識できていた。今後も食育年間指導計画に基づく計画的な指導を更に充実させていきたい。</p>
------------------	---

2 学校教育目標	<p><b>やる気いっぱい 笑顔いっぱい 元気いっぱい 輝く山内西の子</b></p> <p><b>～3つの笑顔で～</b></p>
----------	--

3 本年度の重点目標	<p>①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた教職員の授業力向上</p> <p>②人権教育の充実と特別支援教育のさらなる充実</p> <p>③基本的な生活習慣の定着と児童の健康・体力づくりの向上</p>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○「授業づくりのステップ123」の全項目において、ステップ3を目指した授業づくりを行い、「書く活動」はステップ2を達成した教職員が80%以上にする。 ○ICT（一人一台端末等）を活用して授業を行うことで、学習内容がよりわかると答えた児童が90%にする。	・授業づくりステップ123のチェックリストを活用した自己評価を定期的に行い、授業改善の意識の継続を図る。 ・各学級や個人の理想に応じて、授業を工夫する。（指導の個別化、学習の個性化） ・ICT機器を活用した授業を毎日1単位時間以上実施し、授業実践等を共有する。（校内研究、スキルアップ座談会）	B	・ICT（一人一台端末等）を活用することで授業がよく分かる」と回答した教職員は94%であった。 ・教職員は、今年度うちに「学びの地図」「振り返りシート」に1回以上取り組み、共有する研修を行う。 ・「授業づくりのステップ123」の「書く活動」においてステップ2を達成した教職員は69%であった。夏休みの研修以降、朝の西のつタイム(国語・算数の基礎基本)や毎单元で記述式の問題に取り組み始めた。2学期も共通実践として全体に取り組んでいきたい。	A	・「授業づくりのステップ123」の「書く活動」においてステップ2を達成した教職員は100%であった。校内研究の共通実践に「書く活動」を取り入れることで、全職員が取り組んで目標を達成することができた。 ・ICT（一人一台端末等）を活用することで授業がよく分かる」と回答した児童が95%であった。 ・教職員は、「学びの地図」と「振り返りシート」に1回以上取り組みようとして提案したことで、「まず使ってみよう」という一歩を踏み出すことができた。次年度にはさらに研	A	・職員が書く活動を意識した授業づくりが100%であること、ICT機器を使い、授業が分かりやすいと回答した児童が95%いたことから、評価は妥当と考えます。 ・個人に対応した工夫された授業づくりが理解力の向上にもつながり、すこぶよい取組だと考える。
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○気持ちの良い挨拶や返事・言葉遣いを意識して行動できる児童を（自己評価）85%以上にする。 ○「自分や相手が大切だ」と思う児童を85%以上にする。	・集会活動や運動会、あいさつ運動等や異学年交流の機会を設け、思いやりのある関わり方を意識させる。 ・人権・同和教育、男女平等教育は全教育課程に位置付け、教育活動の中で周りの人とのつながりを感じさせるとともに、一人ひとりの存在を認め合うことができるようにする。	A	・集会活動等を通じ、自然に異学年と交流できるように仕組んだ。子ども達は学年に振り出し、温かい雰囲気の中で参加できた。 ・日頃から教職員で、すべての子どもへの挨拶や言葉かけをし、児童一人一人に安心感、自己肯定感を与えるような指導や支援心がけができた。7月の平和集会では、自分たちが毎日、当たり前のように生活できていることに感謝するように、戦争の恐ろしさとの大切さについて考えさせることができた。	A	・全教職員で、あいさつや言葉遣いについての指導、声掛けを行った。 ・家や地域や学校で気持ちの良い挨拶や返事・言葉遣いを意識して行動できる児童は95%であった。 ・「自分や相手が大切だ」と思う児童は98%であった。 ・本校の重点目標である「3つの笑顔」を全職員、一人ひとりの学習面、生活面を安心感のあるものにするための支援ができた。	A	・気持ちの良い挨拶を意識した児童が目標85%に対して、95%を達成できていることが子どもたちの成長にもつながっている。 ・「3つの笑顔」の取組で、数値的にもしっかりと達成できている。
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「やまうち言葉」の「優しい言葉を周りの人へ」を意識して行動できる児童（自己評価）を90%以上にする。	・「Q-Uアンケート」「いじめアンケート」「教育相談」を実施し、いじめや気になる児童の早期発見・早期対応に努める。	A	・6月にいじめ・体罰アンケートを実施し、その結果を受けて、気になる回答があった児童との面談を実施することで、全ての事案に対して早期に対応することができた。	A	・児童の評価アンケートで、92%の児童が優しい言葉を周りの人へ意識して行動できていると答え、目標達成することができた。 ・年間を通して「Q-Uアンケート」「いじめアンケート」「教育相談」を実施し、いじめや気になる児童の早期発見・早期対応を行うことができた。	A	・子どもたちと先生方の信頼関係が構築されている環境が、保護者としても見て取ることができている。 ・89%の中間評価が最終評価では91%へなっており、学校学級経営の努力の結果だと考える。
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と思う児童を85%以上とする。 ●「将来の夢や目標を持っている」という肯定的な回答をした児童生徒85%以上	・毎日の朝の会で、いいことをした人や頑張った人を紹介する場を設け、児童の発表に対し、肯定的なコメントをしたり、教師から紹介をしたりする。 ・行事ごとに、キャリアパスポートを活用し、目標を達成できたところや頑張ったことについて振り返ることで、次の目標や将来への意欲につなげる。	B	・「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と回答した児童は89%であった。各クラスでは朝の会でも良いところを紹介する時間を設けている。「笑顔コイン」の内容を学校だよりに掲載したり、全校朝会で表彰を行ったり、全校で楽しみながら取り組んでいる。 ・目標はもつことができようになっているが、将来の夢に課題がある。150周年行事や授業を通して、自己理解や将来の自分について考えさせていきたい。	A	・「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と回答した児童は91%であった。各クラスでの取り組みや、全校での笑顔コインの取り組み、全校朝会での表彰など、さまざまな場面を通して、児童のがんばりを認めあえる環境づくりが、結果につながったと考えられる。 ・「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童は85%であった。150周年記念行事やキャリア教育を通して、自己理解を深めたり、今後の自分について考	A	・子どもたちと先生方の信頼関係が構築されている環境が、保護者としても見て取ることができている。 ・89%の中間評価が最終評価では91%へなっており、学校学級経営の努力の結果だと考える。
●健康・体づくり	○行事や他教科との関連を意識した道徳科の授業実践	○職員アンケートで「行事や他教科等との関連を意識した授業を実施できた」と思う教職員を90%以上にする。	・道徳推進リーダーが、授業を公開したり資料を配布したりして、先生方へ積極的に授業提案をしていく。	A	・毎週の授業公開、勉強会などを企画し、道徳の授業について提案をすることができた。創立記念日に重ねて自主開発授業にも取り組み、関心をもってもらうようにする。	A	・「自分や友達のことを大切に思っていて、行動していますか。」と回答した児童は98%であった。毎週の道徳の授業の中で、優しい心を養い、また日々の生活指導の中で先生方の適切な声かけや支援が結果につながったと考えられる。	A	・日々の指導や道徳教育の結果が98%の結果につながったと考える。
	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える児童100%を目指す。 ○朝食をとって登校する児童90%以上を目指す。	・給食時間の放送を通して、食材の産地や調理方法に関心をもたせ、食事の大切さに気付かせる。 ・各学級で食育指導を行い、食事の必要性に気付かせる。	A	・「健康に食事は大切である」と考える児童は98%であった。数値目標まであと一歩というところまでできているので、給食の放送を通して食の大切さを気付かせる。 ・朝食をとって登校する児童は97%であった。数値目標を達成しているため、食育週間を通してさらに意識を高めていけるようにする。	A	・「健康に食事は大切である」と考える児童は97%であった。100%までは到達できなかったものの、今後も継続的に食事の大切さを啓発していきたい。 ・早寝・早起き・朝ごはんをチェックする週間を設けるなど、朝ごはんの必要性を意識させることができた。 ・朝食をとって登校する児童は96%であった。数値目標を達成することができた。	A	・97%、96%の達成は十分であるが、朝の早起きや朝食を摂る習慣は今後、家庭の方へも継続して呼びかけてほしいと思う。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○「安全に関する資質・能力の育成」	○登下校や休み時間を含め、運動やスポーツなどで体を動かす時間が1週間280分(1日40分程度)以上の児童70%以上	・登下校は原則歩いて促すことを推奨する。 ・昼休みや休み時間に、外に出て体を動かすよう声掛けを行う。運動委員会の児童に全校遊びを計画させ、実行する。	A	・登下校や休み時間を含め、運動やスポーツなどで体を動かす時間が1週間280分(1日40分程度)以上の児童は90%であった。全校遊びを実施し、体を動かす楽しさを知ってもらった。	A	・「登校や下校、昼休みなども含めて、スポーツや運動など1日40分以上体を動かしている」と回答した児童は、93%だった。全校遊びやなわとび週間を通して、体を動かす楽しさを知ってもらった。	A	・全校で体づくりの取組がなされ、その成果が出ていると考える。 ・運動に苦手な子どもも進んで取り組める環境づくりができればよい。
	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・定時運動ボードを活用し、職員自ら定時で運動する日を設定させ、ワークライフバランスの取れる働き方を推奨する。 ・長期休業前に、これまでの年次休暇取得日数を知らせ、年間取得14日以上を取得させる。	B	・定時運動については、だいぶ意識づいてきており、計画を立てて仕事を遂行することができるようになってきた。 ・年次休暇の取得については、偏りがあるため、さらに目標日数を提示していく取組を行う。	A	・「勤務時間の上限を超えない業務遂行ができており」と回答した職員は、68.8%であったが、年度前半より働き方への意識づけができてきた職員が増え、昨年より時間外勤務の短縮ができた。 ・年次休暇についても年間目標14日に近い	B	・難しい課題で、時間外勤務時間の減少を目指すために、まだまだ時間もかかる。これからの業務を改善する必要がある。 ・昨年より意識して働く職員の数値が落ちているようなので、来年につなげるためにB評価としたい。
●特別支援教育の充実	○「コミュニティ・スクール」及び「官民一体型学校」としての開かれた学校づくり	○保護者アンケートで「開かれた学校づくり」に努めている」の肯定的な回答を90%以上にする。	・地域と連携した教育活動の様子を、学校HPや学校・学級だより等で定期的に公開し積極的に情報発信する。動画の配信等、通信の手段を工夫する。	B	・「学校は学校だよりや学級だよりで様子を分かりやすく伝えている」というアンケート項目で、96.3%の保護者が肯定的に回答しているが、地域連携については、2学期に多く実施する予定である。	A	・「保護者へ分かりやすく学校の様子を伝えていく」と約96%、「地域と共にある学校づくりに努めている」とに約99%と捉えられており、十分に目標を達成できた。	A	・一保護者としても、学校のことがよく伝わっている。 ・学校だよりなどで保護者の学校理解が進んでいると思う。
	○教員の児童理解と支援力の向上	○職員アンケートで特別支援教育に関する児童理解と支援策を意識して指導する教職員90%以上を目指す。	・特別支援教育に関する研修会を実施する。 ・ケース会議の開催、連絡会による情報共有をする。	A	・特別支援教育に関する児童理解と支援策を意欲的に指導している職員は、95%であった。 ・研修会、ケース会議や配属を要する児童について共通理解の場を設けたり、支援計画を作成したりしたことで、有効な支援、指導を行うことができた。	A	・研修会、支援会議等を通して児童理解に努め、適切な配慮、支援を意識することができている職員は100%であった。実際に支援を要する児童への対応には、職員間で連携をとり、特性に応じた対応がみられ、研修の成果であると考えられる。	A	・研修会等の実施で、学校全体で努力されていると考える。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目									
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○情報モラル教育の充実	○情報やセキュリティに関する知識の保持、ルールやマナーを守るための授業の実践	○職員アンケートで児童がイメージしやすいような情報モラル教育における「再現性」「具体性」のある指導ができた教職員80%以上にする。	・情報教育推進リーダーが、定期的な情報教育に関する資料を回覧したり、長期休暇に職員に向けて研修を行ったりする。	B	・リーダー研において、全職員に周知したいことや県教育DX週間について回覧していくことができた。 ・夏季休業中に、職員を休ませる振り返りさせ方やロードマップの作り方について研修を行い、教師のスキルアップに努めることができた。	A	・学校評価アンケートにおいてICT機器活用も含めた授業の実践ができた児童が93%であった。児童・保護者においてもICT機器を活用した授業に取り組んでいること、90%以上「あてはまる(少しあてはまる)」と回答があった。研修や推進校視察の報告なども含め、職員間でスキルアップに取り組めた。モラル教育は今後も継続して取り組んでいく。	A	・長期休暇を利用して研修などを実施されているようなことが、職員のスキルアップや授業実践につながっていると考える。職員も幅広い年代の中で実践できていることがすごいと感じた。
○教育相談体制の充実	○児童が安心して教育を受けられる相談体制の充実	○心のアンケートや教育相談の実施により児童に寄り添う支援ができた教職員90%以上を目指す。	・教育相談時間を定期的に設定したり、心のアンケートに取り組んだりすることで、児童一人一人の状況把握し、温かい声かけや支援を行っていく。	B	・5月よりのアンケートを実施し、気になる回答があった児童に対して教育相談を行った。 ・6月に「Q-Uアンケート」を実施し、その結果を用いて、結果の見方と活用に関する職員研修を実施した。また、その研修を受けた後、Q-Uアンケートを活用し、9月に全児童に対して教育相談を行った。	A	・「3回」心のアンケートを実施。その結果、職員の100%が「心のアンケート」を行ったことにより児童に寄り添う支援ができたこと、聞いた(少しあてはまるを含む)。また、児童・保護者アンケートや教育相談が100%の防止につながっていると回答している保護者の割合が93%であり、アンケートを有効に活用することができた。	A	・月ごとのアンケートの実施が教育相談の充実につながっている。子どもにも寄り添える環境を今後も作ってほしい。

5 総合評価・ 次年度への展望	<p>●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育</p> <p>・年間を通し、おおむね達成できている項目が多かった。また、学校運営協議委員会からも一年間の取組への評価をいただくことができた。 ・児童アンケート等で達成が十分でない取組については、年度初めに検討し、スモールステップで達成を目指していく。 ・「教職員の業務改善、働き方改革の充実」については、今後も改善策を探り実践していく必要がある。それぞれ個々のワークライフバランス意識の向上や業務の軽減への研修・協議を推進し、より働きやすい環境づくりに努めていきたい。</p>
--------------------	---